

FD委員会・基礎教育部会
平成19年度のSEおよびアンケート等を受けた教育改善点

科目等	改善内容	改善の動機・理由・インパクト等					
		部会等の提案	学生SE・アンケート	自治会等要望	担当教員要望	事務局提案	その他
基礎ゼミナール	クラスあたりの受講者数の調整。H19年度は、やや強い指導のもとに24名以下おおよそ20名以上として受講生を平均化した。これにより、従前、教員・学生双方から出ていた、受講生の多さの不满は、アンケートによると激減した。次年度もこのクラス編成方式を踏襲することにした。	○	○		○		
	都市文明講座は、今年度までレポートを課していたが、評価することの困難さの指摘があり、次年度からはレポートを課さず、出席を取ることにした。	○			○	○	○
	基礎ゼミナールの一層の充実を図るため、また、FD活動として教員相互の情報共有と、新規担当の教員への情報提供を図るため、基礎ゼミナール懇談会をシラバス提出前の12月に開催した。基礎ゼミナールという科目を再確認し、実施例の説明と質疑応答、アンケート内容に関する質疑応答などを行った。	○	○		○		
	基礎ゼミナールの円滑な実施のために、昨年度までに引き続き、「基礎ゼミナール担当者の手引き」を配布した。	○			○	○	
	H19年度開講数を、H17年度77クラス、H18年度78クラスよりさらに1クラス増やし、79クラスとした。過去3年間の受講生申請分布を見ながら目標を設定し、目標どおりに曜日配置を行うことができた。	○	○		○		
実践英語	履修義務免除者に対する個別指導	○					
	全教員への期末試験成績アンケートの実施	○					
	上記結果の全教員へのフィードバック	○		○			
	学生懇談会の実施	○					
	NSE授業で使う英語フレーズ集の作成	○	○	○			
	NSE授業のオフィス・アワー時間帯の調整		○	○			
	6号館講師控室の連絡箱の設置	○			○	○	
	履修相談のためのオフィス・アワーの拡充	○					
	統一試験実施マニュアル・実施体制の整備・改善	○			○		
情報科目	教室の更新を行った(115室、貸し出しノートパソコン)	○			○	○	
	教室の更新を行った(ワークステーション室)	○			○	○	
	情報リテラシー実践の成績評価の指針を作成した	○	○				
	Network-learningシステムを学習支援のため活用した	○			○		
	授業評価アンケートをNetwork-learningシステムを用いて行った	○			○		
	6号館1階にノートパソコンを設置した	○		○		○	
都市教養プログラム	成績評価の公正化について検討	○			○		○
	時間割配置変更による、多人数科目の発生防止	○	○				
	原則外配置(3限配置等)の承認	○	○	○	○		○
	他の必修・推奨科目との重複がないか検討、配置変更	○	○		○		
	人文社会系科目の特定時間帯への集中を緩和	○	○	○			
	新規科目の設置	○			○		
理工系共通基礎科目	数学の授業において1クラスが100人以上となる場合が無くなるようにし、教員数を増やした。	○			○		
	成績評価基準をゆるやかであるが定めて、極端な成績が出ないようにした。						
	教員の環境(黒板・プロジェクター・マイク等)が改善された。		○		○		
時間割	実践英語再履修クラスの適正配置	○		○	○		
	実践英語Ⅱのクラス数の適正化	○					
	都市教養プログラムテーマの見直し				○		
	科目名の変更				○		
	新規開講科目の追加(都市教養プログラム)				○		
シラバス	成績評価方法の明示	○		○			
教室設備等	70人教室にAV機器設置(プロジェクター、パソコン等)	○			○	○	
その他							